

◎ 化学療法室の設置

がんの増加に伴い、抗がん剤や分子標的治療を行う必要のある患者様も増えています。従来は長期入院にて抗がん剤治療を行い、副作用の軽減を待って退院することが一般的でしたが、治療薬の増加や支持療法（副作用の軽減策）の確立により、外来通院での治療開始や継続など治療選択の幅が広がり、仕事や日常生活を続けながら抗がん剤治療を行うことが可能となっています。外来での抗がん剤治療では、短時間で終了可能なプロトコルを選択し、患者様の安全確保と治療専用の場所を確保することを目的として外来化学療法室（厚生労働省の外来化学療法に関する施設基準に準ずる）の新設を行っています。

外来化学療法室での化学療法が可能となる患者様の条件としては、がん患者様で、化学療法の必要性を理解し、全身状態が良好で、予測される有害事象への対応が、外来および自宅で対処が可能であることとしています。運用は6床で開始し、担当する医療チームとしては、医師は担当科主治医を中心として、がん治療専門医、専任看護師、専任薬剤師がその業務を行う体制です。

外来化学療法室で行う業務内容は、患者様の安全性の確保とともに定期的に統一された観察を行うために化学療法クリニカルパスを用いて、情報の収集と解析を行い、次の治療や同一プロトコルにおける経過観察の重要な指標として役立てる方針です。

患者様の病気の状態にあわせ適切かつ安全に化学療法をおこない、患者様のみならず医療者サイドも質が高く、満足度も高い治療が可能となると確信しています。今後ともよろしく申し上げます。

（乳腺外科・化学療法科部長 山崎 誠二）

開始日 平成19年10月16日（火）

実際の患者様の動き

1. インフォームドコンセントと説明、同意書にサイン
2. 化学療法室の病床と日時の予約
3. 治療当日は採血と担当科主治医の診察、点滴ルートを確認
4. 化学療法室へ移動、専任看護師の確認と専任薬剤師の無菌調剤
5. 担当科主治医あるいはがん治療専門医が見守る状況で投与を開始
6. 投与中の経過はクリニカルパス、治療計画書と副作用チェックシート
7. 次回受診予約の確認
8. 医事課へ



◎ 遠隔放射線治療の開始

当院の放射線治療は名古屋市大と連携し、癌治療の一躍を担っています。癌治療を精度よく、より高度な治療を行うことを目的として、安全に実施するため遠隔放射線治療計画を行っています。

1. 放射線治療計画装置とは

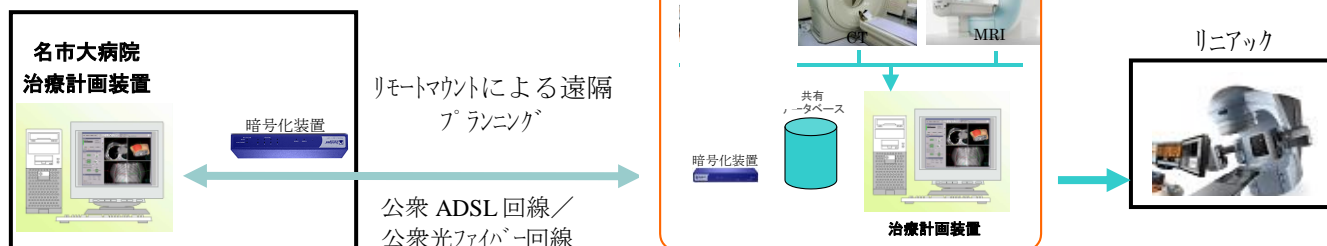
CT画像やMRI画像により決定した治療計画に基づき実際に照射する放射線量を計算するコンピュータです。装置は最新型で精度の高い計算を行なうことができ病巣に確実に放射線を当て健康部には極力当てないように計算します。

2. 遠隔放射線治療システムとは

名古屋市立大学の治療計画装置と浜松労災病院の治療計画装置を接続することにより、名古屋市立大学病院の豊富な経験を活かし、名古屋市立大学病院と浜松労災病院共通で高度な治療を行なうことができます。

3. 情報の安全性

VPN、暗号化、アドレスフィルタの3重のセキュリティ機能により高度な安全性を確保しています。



◎ 第53回浜松労災病院学術集談会の開催について

次により開催します。

1 日程 平成19年11月28日（水）16:00～

2 場所 第1会議室

3 特別講演 「皮膚を診る」 町田皮膚科医院院長 町田 暁 先生

今回より多くの診療所で「水曜日午後休診」のところが多く水曜日の夕方であればご出席頂けるのではないかと予定しました。多数の先生方の参加をお待ちします。